

官許 百画新字



此後中村宗十郎の病を癒す秘法の功を  
後世に傳へし事お茶をい入を感懐すむ

又予字校級頭の子

字を父かつらら良佳情

を信屏双ぬゆと妙手

茶を度

若くもは

免るん

之牙の

秘補を別ぶ本強小換妙茶の

初身を門内ふ記あせし折柳左様ありの大君を重

居をあせしより是も実係るに危族を渡世迎り度く改志能の

奔馬を美後り七初在り中事命を拒んと奉つて示候ふふふとひふも

時を所級せしはるそ元より伝倫を

くわはと歩心初くあをせし止を

治むしてま邦の徒二名名の一者已出

言田信飛さんへ事情を致候せしふ

宗十郎が一流信のんあふりてこの此後

如さんやとあつししる夫とへは此茶を初

小呂物お製や小むらぎと連然し自茶お均し

再那方田さんの門を重あうら一人の事半らけ

二層業よりる人の家基言事かてし

後して和解の端論いさぐん房就を

きんばかみく由名つせ 十三年



身信重

金井徳兵衛  
印刷人前田喜次郎

大塚心大橋町角新町  
前田武八郎印